

こどもの食物アレルギー 緊急時対応シミュレーション講習会 ～ 児童のアナフィラキシーショック時の適切な対応を学ぶ～

2月16日（金）に宮城県立こども病院の愛子ホールにおいて、食物アレルギー緊急時対応講習会を開催し、宮城県内の小・中学校・児童館・幼稚園・保育・消防施設より81名の方にご参加いただきました。講習内容は「小児の心肺蘇生法」と「食物アレルギーと緊急時対応について」の2部構成で行われました。

第1部の小児の心肺蘇生法では、クリニカル・スキルスラボの須藤看護師と荒田先生がインストラクターを務め、アメリカ心臓協会のFamily & Friendsコースを実施しました。コースでは、ビデオ教材を視聴しながら、1人に1体の人形を使用して胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用法、窒息時の対応について学習を行い、修了後には、日本ACLS協会からの修了証が授与されました。第1部の最後には、仙台市消防局の佐藤様より119番通報についてご説明を頂きました。

第2部のこどもの食物アレルギーでは、講師は宮城県立こども病院の三浦医師・北沢医師・佐藤医師・二瓶医師と小児アレルギーエデュケーターの資格のある、鈴木看護師・村上看護師・四竈管理栄養士、森川小児科アレルギー科クリニックの高橋看護師が務めました。

受講者は、食物アレルギーとアナフィラキシーについて講義を受けた後に、動画を用いて食物アレルギーの緊急時の対応方法について学びました。その後、エピペン®トレーナーを使用し、エピペン®の使用手順と取り扱い時の注意点について理解を深めました。

最後のグループワークのロールプレイでは、受講者は教員・園長などの役割を担当し、軽症から重症まで様々な食物アレルギー症状出現時の対処の手順について、緊急時対応マニュアルを用いて演習を行いました。講習会後には、「実際に動いてみると慌てたり、判断に迷う部分があったので、今後繰り返し練習が必要だと感じた」「施設に戻ったら他の職員にも伝え、全体で共有したい」などと積極的な意見が聞かれ、今後も食物アレルギーへの対応について広く伝える必要性を感じた講習会でした。

